

新産地報告 (6)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (6)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

ダンドタムラソウ (シソ科)

Salvia lutescens var. *stolonifera*

・平谷村西町 1150 m 2009 年 7 月 11 日

NAC 158480

小さい溪流脇のやや暗い湿地にダンドタムラソウの小群落を見つけた。ダンドタムラソウは花期にはナツノタムラソウとの区別は困難だが、花後に走出枝を伸ばして地面を這うように広がるため、容易に区別できる。茶臼山周辺の湿地では比較的良好に見かける。

ケヤマウツボ (ハマウツボ科)

Lathraea japonica var. *miqueliana* 写真 1

・木曾町三岳釜沼 900 m 2010 年 5 月 9 日

NAC160049

・飯島町与田切川 1000 m 2010 年 5 月 15 日

NAC 160048

どちらも溪流脇の法面に生育しているのを見つけた。木曾村では 5 株ほどの小群落だったが、飯島町では斜面の広い範囲に多数のケヤマウツボが咲い



写真 1 ケヤマウツボ 飯島町与田切川
2010 年 5 月 15 日

ていた。寄生植物とのことだが、どの樹木に寄生しているのかはわからなかった。近くでは塩尻市で見ることがある(上野・上野 2005)。

トウノウネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium pseudopilosum

・泰阜村唐笠 450 m 2010 年 3 月 22 日

NAC 160045

溪流にそって大きな群落を形成しており、個体数としてはこれまで県内で見た群落の中でもっとも大きいと思われる。また竜東側でのトウノウネコノメの産地としては県内では初めてである。トウノウネコノメは天竜村で数年前に見つかり(上野・上野 2007b)、その後、根羽村でも見つかった(上野・上野 2009b)。

キバナハナネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium album var. *flavum*

・泰阜村唐笠 450 m 2010 年 3 月 22 日

NAC 160044

上記のトウノウネコノメの群落の中に、キバナハナネコノメの 1 m 四方程度の小群落があった。通常、キバナハナネコノメは大きな群落をつくるので、周囲の溪流沿いを調べたが、他には見ることができなかった。これまで観察した範囲では、花以外の茎や葉の様子からは、トウノウネコノメとの区別は困難である。キバナハナネコノメは、天竜村や根羽村のほか、阿南町でも見つかり(上野・上野 2007a)、全国的には静岡県、愛知県、岐阜県の県境を中心とした限られた地域に分布している。

キンシベボタンネコノメソウ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium kiotense form. *ferginiflorum* 写真 2

・木曾町開田高原関谷 1250 m 2009 年 5 月 5 日

NAC 158475

溪流沿いの湿ったところにボタンネコノメソウによく似たネコノメソウ類が点々と生育していた。葉

* 上野勝典・上野由貴枝 〒 399-0011 松本市寿北 2-2-38

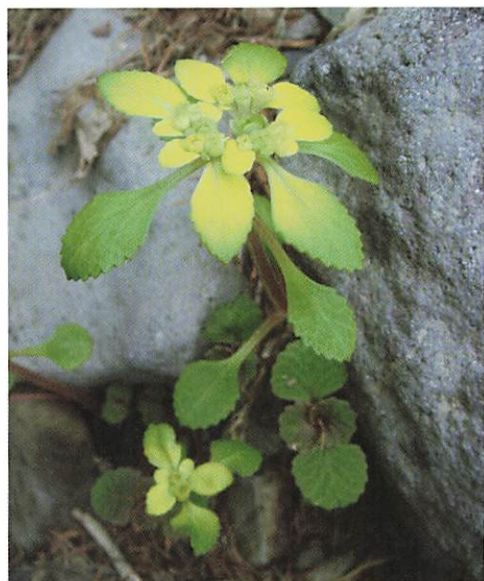


写真2 キンシベボタンネコノメソウ
木曽町開田高原関谷 2009年5月5日



写真3 エゾエンゴサク 木曽町三岳釜沼
2010年5月9日



写真4 ツルシロカネソウ 根羽村万場瀬
2010年8月1日



写真5 アシウテンナンショウ
木曽町開田高原関谷 2010年6月5日



写真6 シナノショウキラン 木曽町日義大柵入山
2009年7月5日



写真7 コハクラン 木曽町日義大柵入山
2009年7月5日

や花の形はボタンネコノメソウに似ているが、がく裂片が黄色い色をしており、また葯の色も黄色であることから、ボタンネコノメソウの品種であるキンシベボタンネコノメソウか、ヒダボタンの変種のヒメヒダボタンのどちらかとなる。ヒメヒダボタンは岐阜県と滋賀県の限られたところに生育しており、花糸の長さがやや長い (Wakabayashi and Ohba 1995)。今回見つけたネコノメソウは、観察の範囲では花糸が短いことからキンシベボタンネコノメソウとした。Wakabayashi and Ohba (1995) によれば、キンシベボタンネコノメソウは岐阜県から鳥取県の日本海側に産するとされている。県内での分布情報はなく、これまではあまり認識されてこなかった可能性がある。

エゾエンゴサク (ケシ科) *Corydalis ambigua* 写真 3
・木曽町三岳釜沼 900 m 2010 年 5 月 9 日
NAC 160053

溪流脇を歩いているとき、ヤマエンゴサクの群落の中に、苞が全縁のエゾエンゴサクの小群落があるのに気がついた。周囲のヤマエンゴサクと比較してみても、花の形状などの違いはほとんどなかったが、やや華奢で弱々しいように感じた。球根状の塊茎の内容に一部黄色いものがあるとされる (大井 1996) が、ヤマエンゴサクと比較してもそれは確認できなかった。

エゾエンゴサクは中部以北の本州から北海道にかけて分布しており、県内では北部の白馬村から飯山市の県境にかけて分布しているので、木曽町は分布上の南限と見られる (長野県 2002)。

トヨボタニソバ (タデ科) *Persicaria geocarpica*
・平谷村西町 1150 m 2009 年 7 月 11 日

比較的なだらかな湿地を歩いていたとき、水の流れてにそってトヨボタニソバが群生しているのを見つけた。生育範囲は広く、湿地全体に広がっていた。トヨボタニソバは近年、ミヤマタノソバとは別の種であることが認識された新種で (須山・植田 2006)、長野県、愛知県、岐阜県の県境付近に局所的に分布しており、県内では天竜村、根羽村、平谷村で生育が確認された (上野・上野 2009a)。今回見つけた場所は、平谷村内だが、現状での分布の北限で、また大きな群落であることから報告する。

ツルシロカネソウ (キンポウゲ科)
Dichocarpum stoloniferum 写真 4

・根羽村万場瀬 550 m 2010 年 8 月 1 日
NAC 160047

溪流脇の岩場に白い花が咲いているのを見つけ、よく見たところツルシロカネソウだった。ツルシロカネソウの花期としては遅めで、ほとんどの花はすでに実をつけた状態だった。周囲を調べてみると、溪流沿いに比較的広く分布していることがわかった。近県では、岐阜県、静岡県、山梨県でも観察したことがあるが、県内では天竜村でのみ記録があった。

ヒトツバテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema monophyllum

・木曽町三岳釜沼 1000 m 2010 年 5 月 9 日
・飯島町与田切川 1000 m 2010 年 5 月 15 日
NAC 160050

ともに溪流脇に点々と生育していた。ヒトツバテンナンショウの葉は 1 枚、小葉は 5 枚以上で葉軸は比較的発達する。付属体は細い棒状で、少し前のめりになる。仏炎苞の内部に八文字の紫色の斑紋があるので、容易に他のテンナンショウと区別ができる。そのほか、松本市扉温泉や安曇野市でも観察した。

アシウテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema robustum var. *ovale* 写真 5

・木曽町開田高原関谷 1200 m 2010 年 6 月 5 日
NAC 160052

開田高原の 2 か所でアシウテンナンショウを見つけた。アシウテンナンショウはヒロハテンナンショウの変種とされ、仏炎苞は濃い紫色で、花は全体にヒロハテンナンショウよりも大きく、付属体はやや太くて棍棒状となる。ときにヒロハテンナンショウで仏炎苞が紫色のものがあるが、上記のように仏炎苞の大きさや付属体の特徴から区別は可能と思う。『CD-ROM 長野県植物誌資料集』では、奥原弘人氏によって開田高原で採られた標本の記録が記載されているが、『長野県植物誌』(清水 1996) では特に記載がなく、ヒロハテンナンショウと区別していないようである。

ギボウシラン (ラン科) *Liparis auriculata*

・平谷村西町 2009 年 7 月 11 日

溪流の流れのすぐ脇に数株のギボウシランが生育しているのを見つけた。周囲にはジンジソウも見られた。花期にはやや早かったようで、花茎が 2

本ほど伸びていたが開花はしていなかった。県内では近年見つかっていなかったようだが、2年ほど前に根羽村で小群落を見つけている（上野・上野 2009b）。

タカネフタバラン（ラン科）*Listera pinetorum*

・木曽町日義水沢山 1400 m 2009 年 6 月 14 日
針葉樹林下のあちこちに、タカネフタバランやコフタバランが多数生育していた。花茎は出ていたが、開花はまだだった。タカネフタバランは『長野県版レッドデータブック』によるとハケ岳から南アルプスを中心に分布しているが、旧檜川村や王滝村でも観察しており、木曽谷側でもかなり分布があるように思う（上野・上野 2009b）。

コケイラン（ラン科）*Oreorchis patens*

・木曽町日義水沢山 1400 m 2009 年 6 月 14 日
NAC 160054

溪流脇に多数のコケイランが群生していた。コケイランはほぼ全県に分布しており、比較的に見かけるランである。近くでは塩尻市の数か所で見ている。

シナノショウキラン（ラン科）*Yuania flava* 写真 6

・木曽町日義大棚入山 1500 m 2009 年 7 月 5 日
NAC 158479

針葉樹林下のあちこちにシナノショウキランが群生しているのを見つけた。個体数は数 10 株以上とかなり多い。伊那谷側では南アルプス、中央アルプスの数か所で見観察したことはあったが、木曽谷側では初めてだった。南アルプスではシカによる食害が激しい林床に、シナノショウキランやフタリシズカのみが残されており、シカはあまり食べないようである。

コハクラン（ラン科）*Kitigorchis itoana* 写真 7

・木曽町日義大棚入山 2009 年 7 月 5 日
NAC 158478

林道脇に花期をやや過ぎたコハクランが生育しているのを見つけた。一株のみで、周囲をかなり丹念に調べたがほかに見つけることはできなかった。コハクランの葉は 1 枚で、表面の葉脈が白くなるので、葉だけで他の植物と容易に区別ができる。『長野県版レッドデータブック』にはハケ岳と駒ヶ根市の記録が記載されているが、木曽谷側では初めての記録と思う。

ツチアケビ（ラン科）*Cyrtosia septentrionalis*

・平谷村西町 1150 m 2009 年 8 月 8 日

ツチアケビが数か所で開花しているのを見つけた。ツチアケビは県内では、南部を中心に分布しており、近くでは根羽村と上松町で観察した（上野・上野 2007）。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム（NAC）の大塚孝一氏には、心より感謝いたします。

引用文献

- 長野県（2002）長野県版レッドデータブック。 維管束植物編。
長野県植物誌資料集作成委員会（2005）CD-ROM 長野県植物誌資料集（普及版）。
大井次三郎（1982）ケシ科 佐竹義輔他編「日本の野生植物」（1982） 草本Ⅱ 離弁花類：124-125。 平凡社。
清水建美監修（1997）長野県植物誌。 信濃毎日新聞社。
須山知香・植田邦彦（2006）ミヤマタニソバ（タデ科）近縁の新種トヨボタニソバ。 日本植物学会第 70 回大会 講演要旨集 184。
上野勝典・上野由貴枝（2005）新産地報告（2）。 長野県植物研究会誌 38：137-138。
上野勝典・上野由貴枝（2007a）新産地報告（4）。 長野県植物研究会誌 40：233-236。
上野勝典・上野由貴枝（2007b）長野県で見つかったトウノウネコノメ。 長野県植物研究会誌 40：103-105。
上野勝典・上野由貴枝（2009a）長野県における新種トヨボタニソバについて。 長野県植物研究会誌 42：39-42。
上野勝典・上野由貴枝（2009b）新産地報告（5）。 長野県植物研究会誌 42：65-69。
Wakabayashi, M and H. Ohba (1995) "A Taxonomic Study of Chrysosplenium fauriae Group (Saxifragaceae), with Description of a New Species". Acta Phytotax. Geobot. 46(1): 1-27.